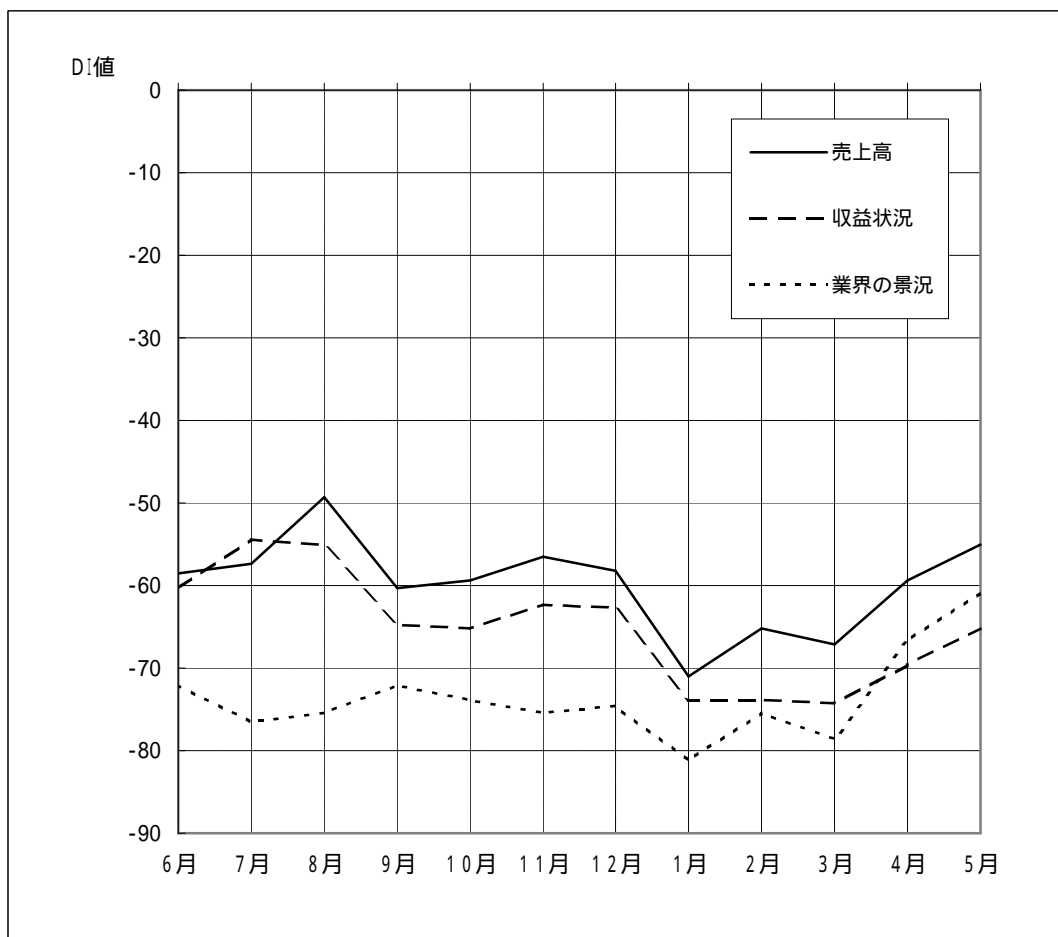


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成13年6月～平成14年5月

単位:ポイント



	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
売上高	-58.5	-57.4	-49.3	-60.3	-59.4	-56.5	-58.2	-71.0	-65.2	-67.1	-59.4	-55.1
収益状況	-60.3	-54.4	-55.1	-64.7	-65.2	-62.3	-62.7	-73.9	-73.9	-74.3	-69.6	-65.2
業界の景況	-72.1	-76.5	-75.4	-72.1	-73.9	-75.4	-74.6	-81.2	-75.4	-78.6	-66.7	-60.9

5月の前年同月比DI値をみると、3項目すべてが2ヶ月連続で改善された。「景況」は前月より5.8ポイントの改善で-60%台となり、昨年4月以来の-50%台に近づいた。

また、「売上高」は4.3ポイントの改善、「収益状況」は4.4ポイントの改善と、ともに-50%台、-60%台を推移し上向きの傾向はあるものの、前年同月より低い水準でもあり、全体としての中小企業の業況は、まだまだ厳しい状況下にある。

業種別の「景況」をみると、製造業では、不変とする業種が少し減った中で、「一般機器」「木材・木製品」で好転がみられたが、「鉄鋼・金属」「食料品」で悪化の割合が高く、また、非製造業は、不変とする業種が増えた中で、「商店街」で一部好転がみられたものの、総体的には製造業より悪化の割合が高く、「鉱業」「建設業」「卸売業」「商店街」でその傾向が顕著である。

組合の特記事項からは、「鉄鋼・金属」「木材・木製品」を含めた製造業では、受注の減少や販売価格の低下等による売上高の減少等の他一部輸出の好調から受注の引き合いが出てきた報告、「商店街」「卸・小売業」「サービス業」を含めた非製造業では、消費の低迷及び売上高の減少や収益の悪化等の報告がみられた。そんな中で一部の商店街では、空き店舗への出店等で賑わいが戻ったという明るい話題も報告されたが、全体的には人員の削減等でこの難局を乗り切っている実情が報告されるなど厳しい状況が窺われる。